

映像学会 第49回大会 第三通信

I. 大会テーマ 「東アジア・情動・フェミニズム」

【第49回大会に向けて】

本大会のテーマには、ジェンダー・フェミニズム批評にとって重要な映像研究における女性・情動・身体という問題系を取り上げ、明治学院大学の映像研究が重要視してきた東アジア文化圏という地政学的な角度から考えます。大会初日には、韓国国立総合芸術大学校教授で昨年『Korean Cinema in Global Contexts : Post-Colonial Phantom, Blockbuster and Trans-Cinema』（アムステルダム大学出版）を上梓された金素榮氏を講師としてお迎えし、「悲しみが私たちを連れて行くところ：哀悼、場所、女性史」というタイトルで基調講演を行っていただきます。続いて、本大会のテーマに関して韓燕麗会員にモデレーターとして参加して頂き、金氏と斉藤綾子のダイアローグを展開します。会員の皆さんからの質疑応答の時間も含め、活発な議論となることを期待しています。（斉藤綾子／第49回大会実行委員長）

II. 大会スケジュール

1. 会場 明治学院大学
2. 会期 2023年6月10日（土）、11日（日）
3. プログラム

☆1日目 【一般公開】

- 12:00 受付開始（明治学院大学本館3階正門側）
- 13:30~14:00 開会式（会場：本館1301教室）
- 14:00~15:30 基調講演「悲しみが私たちを連れて行くところ：哀悼、場所、女性史」
金素榮（韓国総合芸術大学校教授・映画監督）
※ページの下に金素榮氏のプロフィールを掲載しています。
翻訳・通訳 ファン・ギョンミン
（明治学院大学言語文化研究所外国人研究員・野花映画祭プログラマー）
- 15:30~15:50 休憩
- 15:50~17:00 対談 「東アジア・情動・フェミニズム」というテーマを受けて
金素榮×斉藤綾子（明治学院大学教授／日本映像学会会長）
モデレーター 韓燕麗（東京大学教授）
- 17:30~19:30 交流会（会場：インナー広場） ※交流会は飲食を伴いません。

☆2 日目

9:30 受付開始（明治学院大学本館 2 階正門側、出入口付近）

10:00~17:20 研究発表・作品発表（会場：明治学院大学本館）

●研究発表・作品発表プログラム（下記のリンクを参照してください）

<https://jasias.jp/wp-content/uploads/2023/05/49presentationprogram.pdf>

※大会当日は大学の生協、食堂は営業しておりません。大学周辺にコンビニエンスストアは 2 軒ありますが、白金高輪駅、白金台駅あたりまで行くと飲食店はあります。飲食店案内地図を用意いたします。またキャンパス内でお弁当を食べていただくことは可能です。

III. 研究発表／作品発表について

1. 発表時間

- ・研究発表／作品発表の時間は 25 分、質疑応答は 5 分とします。

2. 使用機材

- ・研究発表／作品発表にあたっては、持参したノート PC、会場設置の DVD／ブルーレイプレイヤーからプロジェクター、スピーカーへの接続が可能です。
- ・ノート PC からの接続は HDMI もしくは VGA 端子が使用可能です。HDMI、VGA 端子への変換コネクタは、出力確認の上、発表者が持参してください。iPad からの接続の場合は、変換プラグによっては音声が出力されなくなる場合がありますのでご注意ください。
- ・作品発表においてその他の機材の使用を希望する場合は発表者にご用意いただきますが、必要に応じて個別にご相談ください。
- ・発表に際しての配布物がある場合は、各自用意してください。
(今までの大会のデータからは、ひとつの発表の参加者は 20~40 くらいです)

VI. eduroam アクセスについて

- ・明治学院大学はeduroamに参加しています。大会会場でeduroamを通して無線LANへのアクセスを希望される方は、事前に所属機関でeduroamのアカウントと接続方法をご確認のうえ、ご来校ください。eduroamにアクセスのない会員向けに大会開催中はゲストアカウントを用意する予定です。参加受付にて情報をお渡しいたしますので、必要な方はお申し出ください。

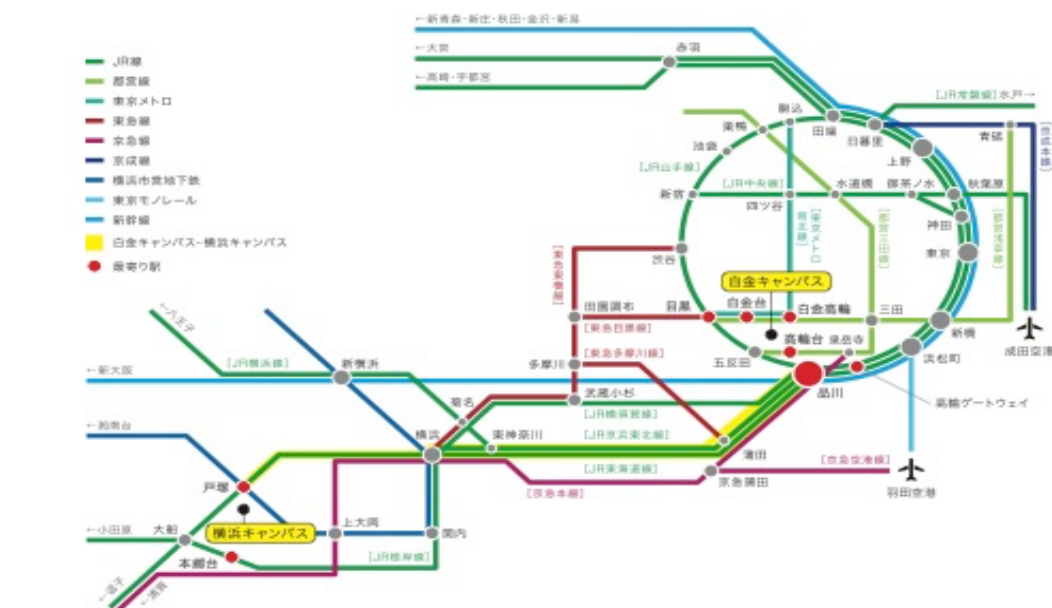
V. 会場までの交通案内

●明治学院大学白金キャンパスへのアクセス

(URL: <https://www.meijigakuin.ac.jp/acces>)



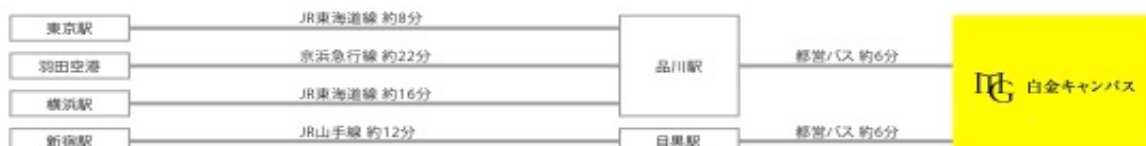
白金キャンパス 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37



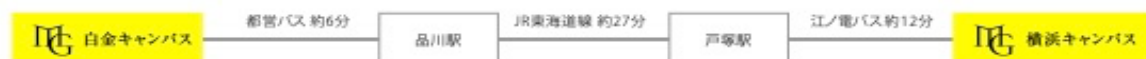
最寄駅からのアクセス

- 品川駅から
[JR 山手線 / 京浜東北線 / 東海道線 / 横須賀線 / 東海道新幹線 / 京浜東北線]
高輪口より都営バス「目黒駅前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約6分）
※徒歩約17分
- 目黒駅から
[JR 山手線 / 東急目黒線 / 東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線]
東口より都営バス「大井競馬場前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約6分）
※徒歩約20分
- 白金台駅から
[JR 東横線 / 都営地下鉄三田線] 2番出口（白金高輪駅 / エレベーター有）より徒歩約7分
- 白金高輪駅から
[東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線] 1番出口（目黒側 / エレベーター有）より徒歩約7分
- 高輪台駅から
[都営地下鉄浅草線] A2番出口より徒歩約7分

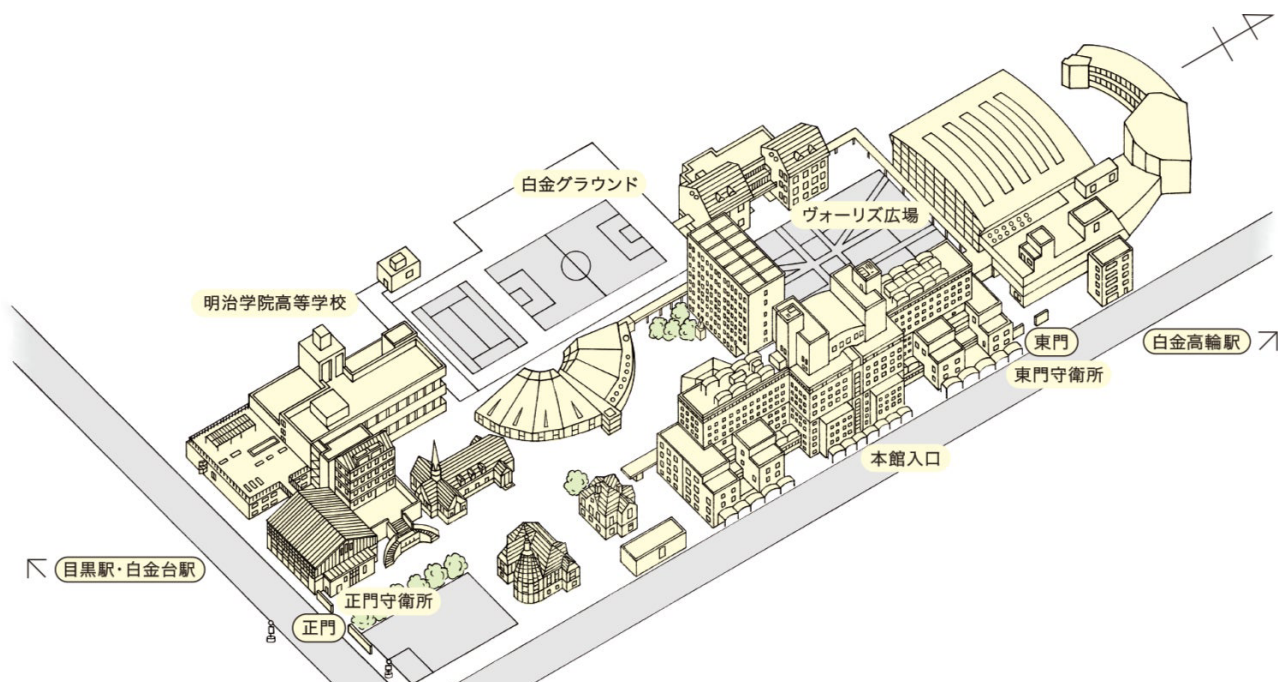
主要駅からのアクセス例



キャンパス間のアクセス



● キャンパスマップ



※交流会を行う INNER 広場は、ヴォーリス広場近くにあります。

日本映像学会第 49 回大会実行委員会

実行委員長 齊藤 綾子 (明治学院学院大学)

副委員長 鳥山 正晴 (日本大学)

委員 晏 妮 (日本映画大学)

奥野 利邦 (日本大学)

韓 燕麗 (東京大学)

志村三代子 (日本大学)

宮本 裕子 (立教大学)

門間 貴志 (明治学院大学)

※金素榮氏プロフィール

映画監督、映画祭プログラム・ディレクター、映画研究者、映画批評家。韓国国立総合芸術大

学校教授、トランス・アジア・スクリーン文化研究所所長。韓国映画に関する数多くの著作があり、フランス、米国、ドイツなどでも客員教授を務める。2001年の国際交流基金による韓国映画プロジェクトにゲストとして来日、対談や講演を行った。プログラムディレクターとしてソウル国際女性映画祭を、初代共同プログラマーとして全州国際映画祭を立ち上げ、ソウル国際女性映画祭の国際諮問委員会のディレクターを勤めている。現在、釜山現代美術館「映画の環境：島、地球、ポスト・コンタクトゾーン」展示ディレクターを務める。

HPは www.soyoungkim.net.

主な著書に『シネ・フェミニズム：大衆映画の詳細に読む』（韓国語、1995年）『近代性の幽霊：ファンタスティック・コリアン・シネマ』（韓国語、2000年）『カタストロフィーの地図（韓国という映画的事態）』（韓国語、2014）『Korean Cinema in Global Contexts: Postcolonial Phantom, Blockbuster, Trans-Cinema』（アムステルダム大学出版、2022年）、共編著に『Electronic Elsewheres: Media, Technology, and the Experience of Social Space』（ミネソタ大学出版、2009年）など。日本語に翻訳された論文は、「メディア、急進的民主主義、そして女性場」（安珉花訳『情況』4(8), 2003年、142-151頁）、「消えゆく女性たち--『シュリ』『JSA』『ユリョン』--韓国型ブロックバスター映画」（波瀾剛訳『ユリイカ』33(13)、2001年11月、95-107頁）、「ホラー ファンタスティック映画の時間戦争」（藤井たけし訳『現代思想』29(7)、2001年6月、158-168頁）、「ホラー なぜファンタスティック韓国映画なのか」（同前、148-157頁）、「宙づりの近代—韓国映画におけるフェティシズムの論理」（齋藤一訳『トレイシーズ 別冊 思想』1、2000年11月、294-313頁）がある。

映画監督としての代表的な仕事に2つのドキュメンタリー三部作がある。最初の韓国女性史三部作は『居留—南の女』（2000）『恍惚境』（2003）『本来女性は太陽だった：新女性のファーストソング』（2004）。2つ目の亡命三部作『雪の心 悲しみが私たちを連れていくところ』（2014）『高麗アリラン：天山のディーバ』（2017）『さらばわが愛、北朝鮮』（2019）である。劇映画では『Viewfinder』（2010）を監督、またインスタレーション作品も手がける。